

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肝がん治療に関する後方視的観察研究
	研究目的	肝がん診療においては、エビデンスレベルの高い研究が不足していたために、長らく治療法に関するマニュアルが存在しなかった。2005年に初めて本邦において診療マニュアル（日本肝臓学会編 金原出版）が作られ、以後2度の改訂が行われ現在に至っている。時を同じくしてグローバルにおいても2005年に米国肝臓学会から治療アルゴリズムの提唱がなされた。多くのがん腫のステージングにUICC分類が用いられ、予後や治療法が紐づけられている。しかし、肝がんにおいてはUICC分類が予後を必ずしも反映しておらず、治療法との紐づけがなされていないため、UICC分類とは別に種々のステージ分類が提唱されてきた。その多くは、背景肝機能と腫瘍因子を加味した統合ステージであるが、いまだ統一されたものはない。治療アルゴリズムで規定されている部分については、前向き無作為化試験を組むことは難しく、むしろこのような現状を踏まえて後方視的観察研究を通して治療アルゴリズムの妥当性を検討していくことが望まれる。
	研究期間	2015年12月10日から2030年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	森本 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科肝胆膵
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし